子どもの足トラブルに対応

ミズノ「キッズシューズ勉強会」

0～3歳の靴選び重視

ミズノは11月30日、（東京、ミズノショップ原宿3F）でマスコミ関係者対象の「キッズシューズ勉強会」を開催した。NPO法人オーソティックスソサエティー理事長で医学博士の内田俊彦氏が講義を行い、同社グローバルフットウエア企画生産部の北野詠子氏が商品説明を行った。

近年、外反母趾に代表される足のトラブルが幼稚園児からも報告されるなど、子どもの足の健康をどう守っていくかについて、母親層を中心に関心が高まっている。同社は01年から、足の専門医と共同開発した子ども靴を販売。長年子どもの足の研究を重ねてきた経緯をふまえ、専門家による情報発信の一環として勉強会を開催した。

まず内田氏が『今こどもの足が危ない！インソファント期（0～3歳）のこどもの足の成長と靴選び』をテーマに講義を行った。

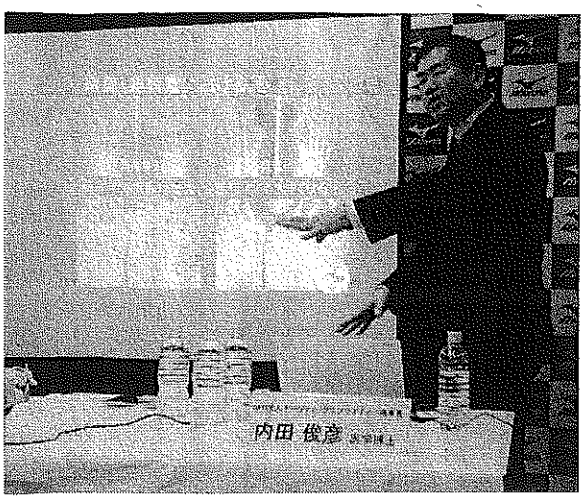
この中で内田氏は、「2歳半から3歳までで足は大人になってからの原型となる。この時期の対応が非常に大事。成長が早いからといって大きめのサイズの靴を履かせるのはダメ」と指摘。「0～3歳までの足はちょっとした力でどうとでも変わるので、靴選びは特に重要になる」と強調した。

まず靴選びのポイントに挙げたのは、サイズの問題。「小さいサイズはもちろん、いまは大きすぎる靴を履いて足が変形する子どもが多い。大きすぎる靴は何も良いことがない」と話した。大きすぎることで靴が脱げないよう足趾を曲げるくせがつき、かぎ爪趾変形やハンマートゥ変形などになるという。そして適正サイズを把握するには、「靴の中敷を外して、それに足を合わせること」としている。

続いて北野氏が同社シューズの特長や機能を説明。多くの子どもたちの足型データを計測し、そこから子ども専用ラストを作り、子どもシューズのベースにしていることを示した。

強調したのは、内田氏と共同開発した〝発育インソール〟。これは3つの足裏アーチにフィットする立体構造中敷きで、これを搭載することにより足指を使った運動を可能にし、健康な体作りをサポートするとしている。

さらに、本田圭祐選手と連動したプロモーションや、塗り絵キャンペーンの展開（11年12月から12年2月末）、運動会必勝塾の実施など、様々な施策で「子どもたちのココロとカラダの成長」をサポートしていく姿勢を示した。



子どもの足の現状を話す内田氏